

「統合高級課程入校 ～将来への最大の投資受け～」

第33期統合高級課程 2等海佐 大原 浩史

はじめに、簡単に自己紹介します。

私は、平成14年に防衛大学校を卒業、引き続いて海上自衛隊に入隊しました。その後P-3C（固定翼哨戒機）の操縦士として、青森県の八戸航空基地において訓練を積み重ねながら、日本周辺海域の警戒監視任務やアデン湾における海賊対処行動に従事しました。指揮幕僚課程修了後、市ヶ谷の海上幕僚監部における幹部候補生の人事業務を経て、沖縄県那覇航空基地にあるP-3C部隊の飛行隊長を拝命しました。南西海域は中国軍の艦艇や北朝鮮船舶等の活発化に伴って、多くの軍艦等が複雑に活動しており、毅然とした行動に留意して指揮を執りました。直近では統合幕僚監部において、防衛警備要領の制定に係る業務等を担当しました。

令和4年3月、目黒にある海上自衛隊幹部学校に幹部高級課程学生として入校、10月からは、同地にある統合幕僚学校において、統合高級課程学生として学んでいます。

1 自己紹介

- 階級氏名：2等海佐 大原 浩史
- 期別：統一期02B（防大46期）、昭和53年生まれ
- 職種：航空用兵（P-3C）
- 経歴：17.12 第4航空隊（八戸）
 - 26. 3 第62期指揮幕僚課程（目黒）
 - 27. 3 海幕人事教育部補任課補任班（市ヶ谷）
 - 29. 3 第51航空隊（厚木）
 - 31. 3 第5航空隊 第52飛行隊長（那覇）
 - R2. 3 統幕運用部運用第一課防衛警備班（市ヶ谷）
 - R4. 3 84期幹部高級課程、33期統合高級課程（目黒）

2 課程教育に関する雑感

本課程では、陸・海・空の様々な業種における最前線の現場で経験を重ねた学生が集結します。そのため、教育カリキュラムのメインとなる安全保障戦略や統合運用に関するグループ研究では、各人が持つ知見を持ち寄りながら議論を積み重ねるため、研究を通じて思考の柔軟性や高い専門性を格段に向上させることができます。もちろん、こうした時間・空間を共にした人間関係は、かけがえのない財産となり、今後の勤務を踏まえば極めて有益な課程であると思います。

諸外国においても同様の教育体系を採用している国が多く、そうした地域への研修では、さらに視野を広げることができます。それぞれの国の置かれた環境や歴史、あるいは基本政策等は文献等を通じて理解をすることはできますが、現地を訪れ、同様の境遇にある学生らとの本音を交えた意見交換等は、対外的な公表に至らないような内容を含めて、肌身

でその国そのものを感じさせてくれます。

20年近くの勤務経験を積んだ時期にこうした教育カリキュラムを経験できることは非常に貴重であり、より多くの方が本課程に入校することをお勧めしたいと思います。

3 課程教育を通じ自身が得たもの、成長した事項

○ 思考の柔軟性

ロシアによるウクライナへの侵攻が世界中の様々な分野に大きな影響を与えたように、現代の国際関係は複雑かつ多面的に絡み合っています。我々は立場上、軍事的観点について専門的に研究しますが、それ以外の分野への関連をバランスよく考えることが重要です。ある課題に対し、大局的な見地と長期的視野を踏まえ、どのような回答が最善となりうるか、という思考過程が身についてきたと実感しています。

○ 国際的視野

文献等を通じて国際関係の動向を調査することのみならず、現地への研修を通じて得られるものは計り知れません。特定の立場を有して会議等に参加するような海外訪問とは異なり、課程教育中の学生としての研修は、広く浅くになりがちなものの、自由闊達で率直な意見交換をしやすい環境にあります。こうした議論を経て、我が国の分析へと還元させることで好循環が生まれ、思考能力を向上できたと感じています。

4 修業後の抱負

現場の部隊を離れて約一年にわたり高度な教育を受講できたことは、非常に幸運な境遇です。修業後の配属先のみならず、今後の勤務では教育を通じて得られた知見等を十分に還元しながら、業務に邁進していきたいと考えています。これは学生の総意であり、気心をわかりあった同期学生や教務を通じて議論した教官、あるいは諸外国で出会った他国軍将校等との人間関係を大切に、国家のために勤務にまい進してまいります。

5 写真



【マレーシア国防・安全保障研究所研修】



【シンガポール海軍基地研修】



【マーライオンとマリナベイサンズ】

(シンガポール国外研修にて)